

名家連ニュース

平成30年11月16日(金)
発行：特定非営利活動法人
名古屋市精神障害者家族会連合会
会長 堀田 明
TEL/FAX (052) 846-5576 NO. 561号

第3回 精神疾患基礎知識講座開催



11月15日の講演テーマは「発達障害について」でした。参加者は、家族31名、一般参加19名、合計50名でした。

古水先生のお話を、資料に沿ってご紹介させていただきます。

「発達障害」とは、発達のしかた、成長のしかたに関するものです。大人になって突然、症状が現れることは基本的にありません。小さい時から、その特徴がみられることが一般的です。

自閉症スペクトラム障害は、三つの特性を持っています。

(1) 社会性の障害 ・他人と社会的な関係を持つことに困難がある。・「人」より「物」が好き。・こだわり行動(同じものを集める、一列に並べる、同じ手順を好むなど)

(2) コミュニケーションの障害 ・言葉の使い方が独特。・言外の意味や皮肉が分からない(言葉を文字通りに受け取る)・常に敬語、あるいは常にタメ口(状況に応じた使い分けができない)・正論である。

(3) イマジネーション(想像力)の障害 ・ごっこ遊びができない。・他人の立場で考えることが難しい。・自分が好きなことを他人が嫌いであることの理解ができない。

《感覚過敏》・音に敏感(人混みにいられない、電車に乗れない、カクテルパーティー効果がない)・触覚に敏感(同じシャツしか着られない)・味に敏感(同じものを食べ続ける)・臭いに敏感(他人の臭いにも敏感)・光に敏感(眩しい場所にいられない)《二次的に》幻聴を訴える：過去の出来事や体験がありありと再現されている場合がある。抑うつ：環境にうまく適応できず、苦しみ、抑うつ的になる。強迫行動：こだわりの強さからパターンに執着することが強迫的に見える。《どうすれば生きやすいか》・なるべく、本人にとって快適な環境をととのえる。・社会的スキルは学習できる(意味は分らなくても、マニュアル的に行動することで成功する)・診断と理解が大切(本人と周りの)

ADHD(注意欠如/多動性障害)は、三つの症状がみられます。

(1) 多動性 ・じっとしていることが難しい。・子供なら、教室で座って授業を受けられない。・大人なら、会議の最中に貧乏揺すりや意味のない動作をする。・遊びにもおとなしく参加できない。

(2) 衝動性 ・衝動を抑えることが難しい。・子供なら、欲しいものがあると激しく駄々をこねる。・大人なら、欲しいものがあると後先考えず衝動買いをする。・会話では、思いついたことをすぐに口に出してしまう(後で後悔)

(3) 不注意 ・子供なら、テストでうっかりミス。・大人なら、仕事でケアレスミス。・子供なら、毎日忘れ物。・大人なら、予定を忘れる、財布を忘れる。

そのために、すぐに注意がそれるため、次々と取り掛かるが完成することがない。興味のあること(ゲームなど)に集中しすぎて切り替えられない。周りの評価は、わがまま、飽きっぽい、協調性がない…次号で、「では、どのように対処すればいいのか」のお話を「続編」として紹介させていただきます。

